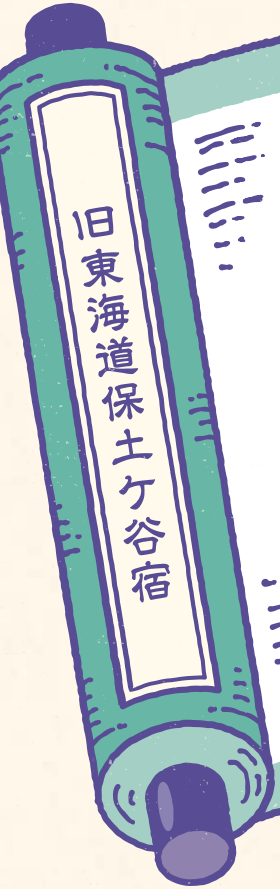
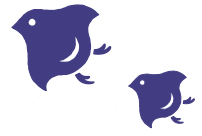




てちようも
手帖を持って
ほどがやれきし
保土ヶ谷の歴史を
たんけん
探検しよう!



てちよう
ほどがや
しゆくば
宿場手帖





てちょう ほどがや みりよく
 この手帖では保土ヶ谷の魅力の1つ、
 きゅうとうかいどう ほどがやしゆく しょうかい
 「旧東海道・保土ヶ谷宿」のいろんなことを紹介しています。
 てちょう も ある ほどがや れきし し
 手帖を持ってまちを歩けば、保土ヶ谷の歴史がもっと知りたくなるかも!

きゅうとうかいどう なに
旧東海道って何?

とうかいどう こだい ちゅうせい よ ふる じだい ひがしにほん にしにほん つな どうろ
 東海道は古代・中世と呼ばれる古い時代から東日本と西日本を繋ぐ道路で、
 やく ねんまえ えどじだい とうかいどう えど とうきよう ほどがや とお きょうと
 約400年前(江戸時代)の東海道は江戸(東京)から保土ヶ谷を通って京都
 おおさか お とうかわいえやす しょうぐん えど かくち むす みち
 や大阪へ向かっていました。徳川家康が将軍となり、江戸と各地を結ぶ道
 かいどう せいび はじ とうかいどう じゅうよう みち ちから せいび
 (街道)の整備を始めました。東海道は重要な道として力をいれて整備され、
 みち ませ たび
 道がきれいになったり、まちやお店ができたりして、旅がしやすくなりました。
 めいじ じだいいこう あたら こくどう とうかいどう よ ふる みち
 明治時代以降にできた新しい国道が東海道と呼ばれるようになると、古い道
 きゅうとうかいどう よ
 は旧東海道と呼ばれるようになりました。



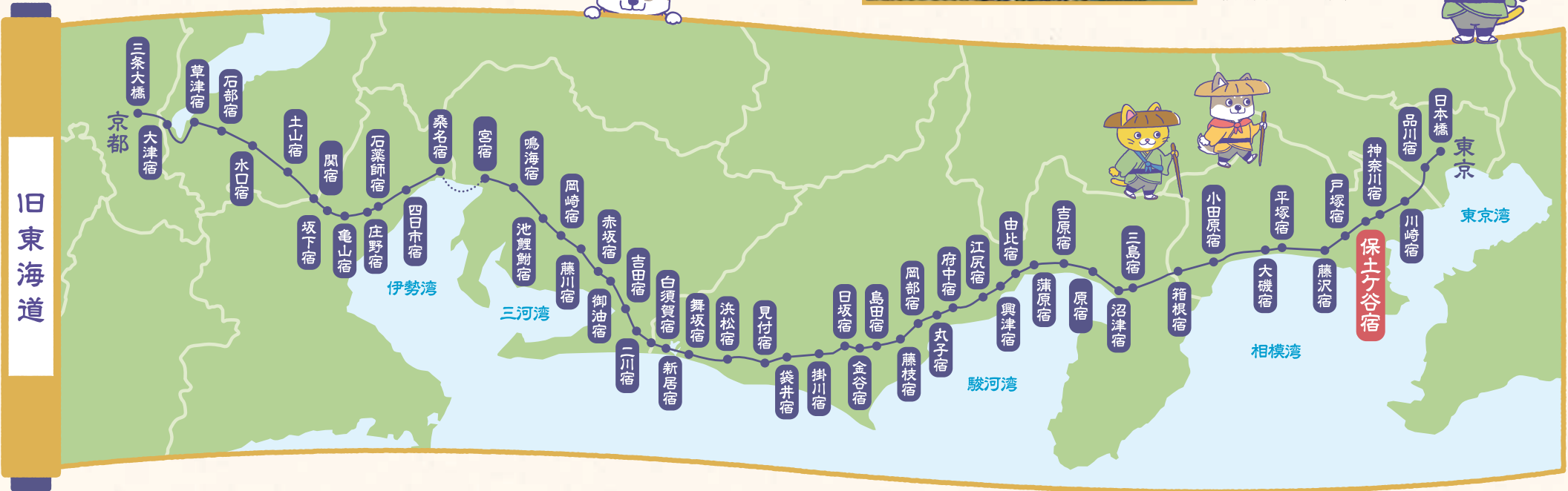
きゅうとうかいどう ある だいまよう だいまようぎょうれつ
旧東海道を歩いた大名たち 大名行列

え ど じだい しょうぐん りょうち だいまよう
 江戸時代、将軍から領地をあたえられた大名たちがいました。
 え ど ばくふ さんきんこうたい せいど つく だいまよう え ど りょうち ねんこうたい
 江戸幕府が参勤交代という制度を作り、大名は江戸と領地を1年交代で
 す だいまよう え ど りょうち い き たび だいまようぎょうれつ い
 住まわされました。大名が江戸と領地を行き来する旅は大名行列と言わ
 れ、大名や家来の武士たち、荷物を運ぶ人たちによって行列ができました。
 だいまよう けらい ぶし にもつ はこ ひと ぎょうれつ
 大名行列で通る道は幕府によって決められましたが、約60%の大名が旧
 どうかいどう とお
 東海道を通りました。



おお りょうち だいまよう
大きい領地をもつ大名は
 3000人にもなる大行列で
 たび
旅をしたんだ!

とうかいどうほどがやのふうけい
 ◀東海道程ヶ谷之風景
 (横浜市中央図書館所蔵)



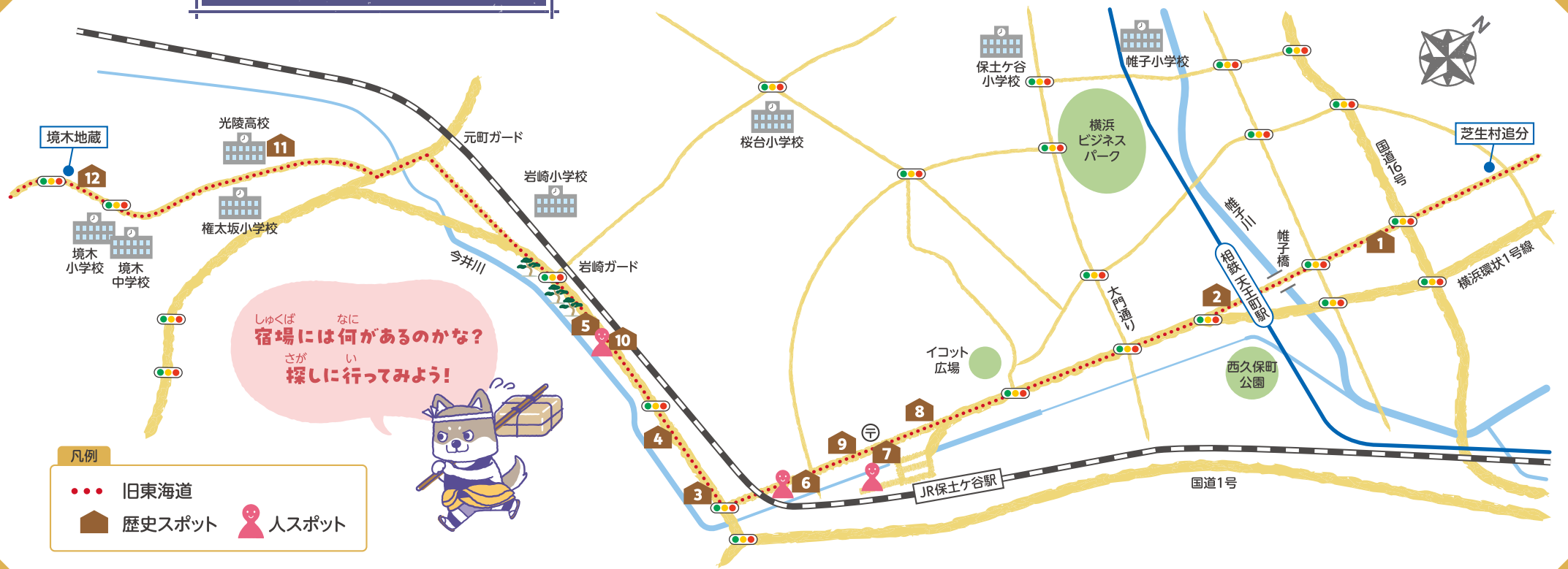
たびびと ささ しゆくば
旅人たちを支えた宿場!

江戸時代には車も新幹線も飛行機もないので、江戸から京都まで行くにはとても時間がかかりました。そこで幕府は、街道沿いに旅人が泊まったり休んだりできる宿場を作りました。宿場のもっとも大切な役割は、隣の宿場から運ばれてきた幕府の荷物や手紙を次の宿場まで運ぶことでした。

ほどがやしゆく
保土ヶ谷宿

江戸から4番目の宿場として保土ヶ谷が選ばれ、保土ヶ谷宿が誕生しました。保土ヶ谷には江戸時代よりずっと前から人々が暮らしていましたが、宿場となったことでより発展しました。保土ヶ谷宿は江戸を出て最初の難所と言われる権太坂の手前にあり、多くの旅人は保土ヶ谷宿で休憩してから坂を越えました。旧東海道は幕府によってそれぞれの宿場が管理するエリアが決められていました。保土ヶ谷宿は、今の西区との境(芝生村追分)から戸塚区との境(境木地蔵)までの約5kmの管理を任されていました。

ほどがやしゆく
保土ヶ谷宿マップ



だいみょう やくにん にもつ はこ ひと
 大名や役人、荷物を運ぶ人たちだけではなく、
 いっぱん たびびと りょう きゅうどうかいどう しゅくば
 一般の旅人も利用していた旧東海道や宿場には、

いろいろな施設やお店ができました。

ここからは保土ヶ谷宿にあった施設やお店、
 今の保土ヶ谷の歴史スポットなどを紹介します。



うきよえ 浮世絵

いま つか ひと けしき しゃしん えいぞう のこ えど
 今ではカメラを使って人や景色を写真・映像で残すことができます。江戸
 じだい 時代にはカメラなんてなかったのが、当時の生活や景色をあらわすのに
 うきよえ えか 浮世絵という絵が描かれました。カラフルで生き生きとした浮世絵は、
 えどじだい ひと にんき あつ ほどがや ふうけい ひとびと せいかつ
 江戸時代の人たちの人気を集めました。保土ヶ谷の風景や人々の生活
 だいざい うきよえ おお か
 を題材にした浮世絵も多く描かれています。



ほどがや だいざい
 保土ヶ谷を題材とした
 うきよえ しょうかい
 浮世絵も紹介するよ!

1 えどがたみつけあと 江戸方見附跡

しゅくば くい ぐち めじるし みつけ えどがわ みつけ
 宿場の出入り口には目印として見附がありました。江戸側の見附を
 えどがたみつけ かみがたいま きょうと がわ みつけ かみがたみつけ い
 江戸方見附、上方(今の京都)側にある見附を上方見附と言います。
 えどがたみつけ かみがたみつけ あいだ しゅくうち よ しゅくばまち
 江戸方見附から上方見附の間は宿内と呼ばれ、宿場町としていろいろ
 しせつ みせ た なら
 な施設やお店が立ち並んでいました。



ほどがやしゅく しゅくうち
 保土ヶ谷宿の宿内は
 やく しゅくばまち
 約2kmあって宿場町として
 にぎわっていたんだ!

2

かたびらばしあと 帷子橋跡

ほどがや なが かたびらがわ やく ねんまえ しょうわ ねんだい かわ こうじ
 保土ヶ谷を流れる帷子川は、約70年前(昭和30年代)に川の工事が
 おこな 行われるまでは、今の天王町駅前公園の場所を流れていました。
 かたびらばし いま ばしょ てんのうちょうえきまえこうえん ばしょ か
 帷子橋も今の場所ではなく、天王町駅前公園の場所に架かっていました。
 むかし どうかいどう おお はし すく かたびらばし うきよえ だいざい
 昔の東海道には大きな橋が少なく、帷子橋は浮世絵の題材としても
 にんき
 人気がありました。



えどじだい かたびらばし か うきよえ
 江戸時代の帷子橋を描いた浮世絵

はし む がわ
 橋の向こう側には
 そばや
 お蕎麦屋さんか
 か
 描かれています。



とうかいどうごじゅうさんつぎのうち
 ◀東海道五拾三次之内
 ほどがやしんまちばしほえいどう
 保土ヶ谷新町橋(保永堂)
 (横浜市歴史博物館所蔵)

えどじだい かたびらばし
 江戸時代の帷子橋を
 イメージした
 はし
 橋のモニュメントがあるよ!
 えどじだい かん
 江戸時代を感じながら
 ある
 歩いてみよう!



かたびら ばしあと
 帷子橋跡

はっけん ちい さむらい
発見! 小さなお侍さん

そうてつせんてんのうちょうえき だいもんどお きゅうとうかいどうぞ くるまど しやどう
相鉄線天王町駅から大門通りまでの旧東海道沿いにある車止め(車道
ほどう あいだ み さむらい
と歩道の間のポール)をよく見ると、ちょんまげのお侍さんがいます。

だいみょうぎょうれつ ひょうげん えど どうきょう めざ
これは大名行列を表現していて、みんな江戸(東京)を目指しているん
だけど、うっかり違う方向を向いちゃっているお侍さんがいるよ!

きゅうとうかいどう みち きゅうとうかいどう
旧東海道の道には、旧東海道を
イメージしたマンホールやタイル
さが
もあります。探してみてくださいね!

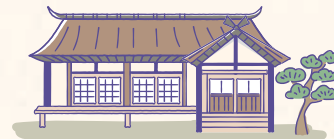


えどじだい ほどがやほんじんあと はたごほんかねこやあと
江戸時代のホテル 保土ヶ谷本陣跡と旅籠本金子屋跡

しゅくば たびびと と しせつ みぶんと と ばしょ
宿場には、旅人が泊まるための施設があり、身分によって泊まれる場所
き
が決まっていました。

てんのう ちやくし だいみょう えど ばくふ やくにん みぶん たか ひと
天皇のおつかい(勅使)や大名、江戸幕府の役人など、身分の高い人は
ほんじん と ほんじん しゅくば なか りっぱ たてもの ばくふ みと
本陣に泊まりました。本陣は宿場の中でも立派な建物で、幕府が認め
だいらよかん ほんじん まんいん わきほんじん たてもの
た大旅館といったところです。本陣が満員になると**脇本陣**という建物
つか
も使われました。

いっばん たびびと はたご や よ
一般の旅人は**旅籠屋**と呼ばれるホテル・
りよかん と はたご や しよくじ
旅館に泊まりました。旅籠屋には食事や
ふる
お風呂がついているところもありました。



はくぶつかん くわなや
まちかど博物館 桑名屋

ほどがやく れきし ぶんか ものがた てんじ はく
保土ヶ谷区には歴史・文化を物語るものを展示している**まちかど博
ぶつかん
物館**があります。

はくぶつかん しゅくば くわなや ち だい
まちかど博物館の1つである**宿場そば桑名屋**さんは、この地で4代
つづ そばや こんどうかんちよう なが あいだ ほどがや れきし い
続とお蕎麦屋さんです。近藤館長は長い間、保土ヶ谷で歴史を活かした
みせ えどじだい たてもの さいげん
まちづくりをしてきました。お店は、江戸時代の建物を再現しています。



ほどがやしゅく れきし おもしろ
保土ヶ谷宿の歴史は面白い!
し し たの
知れば知るほど楽しくなるし、
ほどがや
保土ヶ谷のことが
す
もっと好きになりますよ。



しゅくば くわなや だいめ こんどうひろあき
宿場そば桑名屋4代目 近藤 博昭さん

3 ほどがやほんじんあと
保土ヶ谷本陣跡



ほどがやしゅくほんじん ばしょ や
保土ヶ谷宿の本陣があった場所には屋
ねつ もん のこ もん もう
根付きの門が残っています。門を設ける
ほんじんわきほんじん とつけん
ことは本陣・脇本陣の特権でした。
だいみょう もん
大名たちもこの門をくぐったのかな?

4 はたごほんかねこやあと
旅籠本金子屋跡



めいじじだい しよき たか たてもの
明治時代初期に建て替えた建物です
えどじだい はたごや ふんいき のこ
が、江戸時代の旅籠屋の雰囲気を残し
ています。





まつなみき 松並木プロムナード

えどじだい かいどうぞ なみき う
江戸時代、街道沿いには並木が植えられていました。
ほどが やしゆく まつ う なつ こかげ ひとやす ふゆ かぜ ゆき
保土ケ谷宿では松が植えられ、夏には木陰で一休み、冬には風や雪の
さむ たびびと まも しょうわ はじ ごろ おお まつなみき
寒さから旅人を守っていました。昭和の初め頃までは多くの松並木が
のこ
残っていましたが、だんだんとなくなっていってしまいました。そこで、区民
よこはまし きょうりやく ほどが やちよう いまいがわぞ
と横浜市が協力し、保土ケ谷町の今井川沿
まつ う まつなみき
いに松を植え、松並木がよみがえりました。
まつなみき ある えどじだい たびびと きぶん
松並木を歩けば、江戸時代の旅人の気分にな
れるかも!?



5

いちりづか 一里塚

いちりづか つち も うえ き う かいどう きょり めやす いちり
一里塚は、土を盛った上に木を植えたもので、街道の距離の目安として一里
やく お めじるし むかし
(約4km)ごとに置かれた目印です。昔はスマートフォンもカーナビもないので、
いちりづか ある きょり もくてき きょり はか ほどが やしゆく
この一里塚で歩いた距離や目的地までの距離を測っていました。保土ケ谷宿に
えど ばんめ いちりづか
は江戸から8番目の一里塚がありました。
いまいがわぞ まつなみき いっしょ ふくげん いちりづか おお えどじだい とき
今井川沿いに松並木と一緒に復元された一里塚は、大きさは江戸時代の時よりも
ちい むかしおな えのき う
小さくなっていますが、昔と同じように榎が植えられています。

5

かみがた みつけあと 上方見附跡

かくしゆくば かみがたいま きょうとがわ てい ぐち
各宿場の上方(今の京都)側の出入り口にあると
かみがたみつけ
ころが上方見附です。
ほどが やしゆく かみがたみつけあと どうじ みつけ
保土ケ谷宿の上方見附跡には当時の見附のモニュ
つく いしがきうえ たけ き つく かこ たけやらい
メントが作られています。石垣の上に、竹や木で作った囲い(竹矢来)があります。



魅力発信拠点

ほどが やしゆく ちいき うんえい みりよくはっしんぎょてん 保土ケ谷宿のおもてなし! 地域が運営する魅力発信拠点

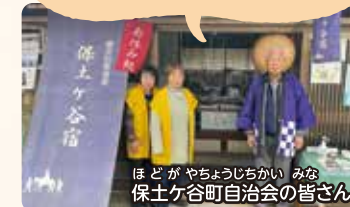


きゅうとうかいどうほどが やしゆく やす どころ 旧東海道保土ケ谷宿お休み処

(保土ケ谷区保土ケ谷町1-96)

やす どころ きゅうけい きゅうとうかいどう
お休み処は、休憩するだけでなく、旧東海道に
かん ほん み
関する本やパネルなどを見ることができます。
えどじだい たびびと いしろう き
また、江戸時代の旅人の衣装を着たり、
あそ
すぐろくで遊んだりすることもできます。

たたみ
量のスペースもあり、
れきし ほん しりょう よ
ゆっくりと歴史の本や資料を読めます。
さがる たよ
気軽に立ち寄ってくださいね。



ほどがやちようじちかい みな
保土ケ谷町自治会の皆さん



かたびら ばんどころ 帷子番所

(保土ケ谷区帷子町2-71)

しょうてんが い なか ちいきこうりゆうせつ
商店街の中にある地域交流施設です。
くない あつ れきしりょう み
区内から集めた歴史資料を見たり、
じもと ひと はな
地元の人とお話ししたりすることが
できます。



かたびらばんどころうんえいいんかい みな
帷子番所運営委員会の皆さん

たよ
ふらっと立ち寄れる
こうりゆう れきし べんきょうきゅうけい
交流スペースです。歴史の勉強や休憩、
ようじ たよ
用事がなくても立ち寄ってください!

6

かなざわよこちようみちしるべ 金沢横丁道標

かたびらばんどころ まえ き いし はしら た ほどが やしゆく きゅうとうかい
帷子番所の前には4基の石の柱が建っています。保土ケ谷宿は旧東海
どう ばしょ わきかいどう ぶんきてん
道からいろいろな場所へつながる脇街道の分岐点でした。このあたりは
きゅうとうかいどう みち いま かなざわく かまくらし つづ みち
旧東海道とかなざわかまくら道(今の金沢区、鎌倉市に続く道)の
こうさてん かなざわよこちよう よ き いし はしら みちしるべ
交差点で、金沢横丁と呼ばれていました。この4基の石の柱は、道標
えどじだい た たびびと
として江戸時代に建てられたものです。旅人はこの
みちしるべ み かなざわ かまくら てら じんじゃ かんこうち
道標を見て、金沢や鎌倉のお寺や神社、観光地へ
む
向かったのかもしれませんが。





しゅくば しせつ
宿場にはほかにもこんな施設があったよ!

たびびと いこ ば ばくふ じゅうよう きよてん しゅくば
旅人の憩いの場であり、幕府にとって重要な拠点であった宿場には、
いろいろな施設がありました。

7 といや ば
問屋場

しゅくば じゅうよう しせつ うま ひと ようい
宿場でもっとも重要な施設で、馬や人を用意し、
ばくふ てがみ だいまよう にもつ つぎ しゅくば はこ
幕府の手紙や大名の荷物を次の宿場に運びま

だいまようぎょうれつしゅくば てい ぐち てむか やくわり
した。大名行列を宿場の出入り口で迎える役割もありました。

8 すけごうかいしょ
助郷会所

しゅくば うま ひと た とき ちか むら
宿場で馬や人が足りなくなった時に、近くの村

から応援をよぶ助郷という制度がありました。

かくむら だいはよう すけごうかいしょ じむしょ もう
各村の代表たちは、助郷会所という事務所を設け、
むらむら うま ひと てはい しじ
村々に馬や人の手配を指示していました。

9 こうざつ ば
高札場

ふくげん こうざつ ば
復元された高札場▶
(神奈川県)



ばくふ き き き めいれい か き いた こうざつ
幕府の決めた決まりや命令が書かれた木の板(高札)を
は ばしょ しゅくば こうざつ ば つぎ しゅくば はこ りようきん
貼りだすための場所です。宿場の高札場には、次の宿場まで荷物を運ぶ料金や、
はたごや しゅくばくたい は
旅籠屋の宿泊代なども貼りだされていました。

10 ちゃや ちゃやほんじん
茶屋・茶屋本陣

たびびと きゅうけい みせ ちゃ かし
旅人が休憩するためのお店。お茶やお菓子、
けいよく た いま ばしょ
軽食を食べることができ、今のカフェのような場所です。

おお ちゃや ちゃやほんじん よ だいまよう きゅうけい
大きい茶屋は茶屋本陣と呼ばれ、大名などが休憩をしていました。

しゅくば とお むら
宿場から遠い村や、
のうぎょう いそが じき
農業が忙しい時期は、
おうえん ひと うま だ
応援の人や馬を出すのは
ふたん
とても負担だったんだ。



ほか いんしよくてん ざつか や
他にも飲食店や雑貨屋、
かみゆいどこ いま りはつてん たびびとむ みせ
髪結床(今の理髪店)などの旅人向けのお店や、
しゅくばしゅうへん むら ひとむ みせ
宿場周辺の村の人向けのお店もあったんだよ。



ほどが やしゅく とつか しゅく しゅくば めいしよ
保土ヶ谷宿から戸塚宿へ、宿場をつなぐ名所!

11 ごん た ざか
権太坂



ふかさんじゅうろけいとうかいどうほどがや
富嶽三十六景 東海道程ヶ谷
(神奈川県立歴史博物館所蔵)

むかし ごんたざか いま きゅう さかみち えど
昔の権太坂は今より急な坂道で、江戸から
ほどがやしゅく たい みち たび たびびと
保土ヶ谷宿まで平らな道を旅してきた旅人に
とって、さいしよ なんしよ とちゅう たお
とて、最初の難所でした。途中で倒れてしま
ひと
う人もいたほどです。
まつなみき む がわ ぶ じさん み すば
松並木の向こう側に富士山が見える素晴らし
ふうけい うきよえ だいがい か
い風景は、浮世絵の題材として描かれました。

12 さかいぎ たて ばあと ぶそうくにざかい
境木立場跡・武相国境モニュメント

しゅくば しゅくば あいだ きゅうけい たて ば さかいぎ えどがわ ごんたざか かみがた
宿場と宿場の間の休憩スポットが立場です。境木は江戸側には権太坂、上方
がわ やきもちざか しなのざか きゅう さか ちようじよう たびびと さかいぎ
側には焼餅坂、品濃坂と、急な坂の頂上にありました。旅人たちは境木にある
ちゃや めいぶつ た
茶屋で、名物のぼたもちを食べて
ひといきやす
ほっと一息休んでいたそうです。



とうかいどうゆうれきすごく
東海道遊歴双六に
か
描かれた
「ぼたもち」

とうかいどうゆうれきすごく
▲東海道遊歴双六
(横浜市歴史博物館所蔵)

とうかいどうごじゅうさんつぎほどがや きょうかいり
◀東海道五拾三次 保土ヶ谷 狂歌入
(横浜市歴史博物館所蔵)

さかいぎ むさし いま とうきょう さいたま かながわけん いちぶ さがみ
境木は武蔵(今の東京・埼玉・神奈川県の一部)と相模
かながわけん くにざかい
(神奈川県)の国境でした。
くにざかい き くい さかいぎ
国境のしるしとして、木の杭があったことから「境木」と
ちめい つ い
いう地名が付いたと言われています。
げんざい ひろば た
現在は、広場にモニュメントが建てられています。



てがみ にもつ とど ひきやく 手紙や荷物をお届け! 飛脚

えど じだい ゆうびん たくはいびん やくめ は ひきやく ばくふ
江戸時代に郵便や宅配便の役目を果たしたのが**飛脚**です。幕府は、
かくしゆくば ひきやく こうよう てがみ にもつ けいしき もくてきち
各宿場に飛脚をおいて、公用の手紙や荷物をリレー形式で目的地ま
とど
で届けました。

えど きょうと やく ある しゅうかん
江戸から京都までは約500kmあり、歩くと2週間ほどかかりますが、
ひきやく ひる よる やす はし みっか よっか にもつ とど
飛脚たちは昼も夜も休まず走り、3日から4日で荷物を届けました。

いま みち せいび
今のように道がきれいに整備されていたり、スポーツシューズがあったり
するわけではありません。山あり谷ありなのでこぼこ道を草鞋で走ってい
おも どうじ ひきやく どりよく かん
たと思うと、当時の飛脚たちの努力が感じられます。



ひきやく 飛脚がルーツのあのスポーツ

きゅうとうかいどう こうたい はし にもつ とど ひきやく なに に
旧東海道を交代で走って荷物を届ける飛脚ですが、何かに似ていると
おも
思いませんか?そう、たすきをリレーでつなく**駅伝**です!駅伝のルーツは
ひきやく い たいしゅう ねん ねん きょうと どうきょう
飛脚だったといわれています。大正6年(1917年)、京都から東京
はし どうかいどうごじゅうさんつきえきでんと ほきょうそう にほん さいしよ
まで498kmを走った「東海道五十三次駅伝徒歩競争」が日本最初の
えきでん どうかいどう くかん わ ひきやく おな ひる よる やす
駅伝です。東海道を53の区間に分けて、飛脚と同じように昼も夜も休ま
はし
ず走ったそうです。

しゆくば しゆくえき よ しゆくば ひと うま
宿場は**宿駅**とも呼ばれ、宿場ごとに人や馬を
こうたい こうよう にもつ はこ せいと てんませいど
交代して公用の荷物を運ぶ制度を**伝馬制度**
しゆくえき えき てんま てん
といいます。宿駅の「駅」と、伝馬の「伝」を
えきでん なづ
とって「駅伝」と名付けられました。



はこねえきでん どうかいどう
箱根駅伝と東海道をデザインした
マンホール

えど じだい ほどが や ぞう ある 江戸時代の保土ヶ谷を象が歩いた!?

きゅうとうかいどう だいまよう たびびと ひと ある みち
旧東海道は大名や旅人などいろんな人が歩いた道ですが、なんとゾウ
ある えど じだい にほん たいへんめずら がいこく
も歩いていたんです!江戸時代、ゾウは日本では大変珍しく、外国から
ばくふ しょうぐん おく ねん なかざき みなと
幕府の将軍にプレゼントとして贈られました。1728年、長崎の港にゾウ
どうちやく よくとし ねん しゅっぱつ きょうと きゅうとうかいどう とお
が到着しました。翌年の1729年に出発し、京都からは旧東海道を通っ
えど お ぜんちょう やく やま かわ こ
て江戸へ向かいました。全長が約2mもあったので、山や川を超えるの
たいへん かたびらがわ わた とき ふね
は大変でした。帷子川を渡る時には、船
いた なら うえ ある
や板を並べて、その上を歩いたのではな
かんが
いかと考えられています。



ぞうのず
象之図(国立国会図書館デジタルコレクション)▲



ある すがた み
ゾウが歩く姿を見て、
ほどが やしゆく ひと
保土ヶ谷宿の人たちも
とてもびっくりしただろうね!

ほどが や かい 保土ヶ谷ガイドの会

ほどが や かい ほどが やくみん く おとず ひと ほどが や
保土ヶ谷ガイドの会は、保土ヶ谷区民や区に訪れる人たちに、保土ヶ谷
れきし ぶんか しぜん みりよく つた かつどう
の歴史・文化・自然などの魅力を伝える活動をしているボランティア
だんたい ほどが やく れきし み はじ ちいき みりよく
団体です。保土ヶ谷区の歴史の見どころを始め、地域の魅力のことは
ほどが やく かい
保土ヶ谷ガイドの会におまかせ!



保土ヶ谷ガイドの会



ほどが や かい みな
保土ヶ谷ガイドの会の皆さん

このころ
みんなにわかりやすいガイドを心がけています。
ほどが やしゆく ほどが や みりよく ぼしょ
保土ヶ谷宿だけでなく、保土ヶ谷の魅力ある場所や、
がっこう
みんなの学校のまわりのガイドもできますよ!



きゅうとうかいどう し とき
旧東海道をもっと知りたい! そんな時は…

ほどがや としょかん
保土ヶ谷図書館 (保土ヶ谷区星川1-2-1)

としょかん ひと し しら かた
図書館の人に、知りたいことの調べ方について
そうだん
相談することもできます。



保土ヶ谷図書館

よこはまし れきし はくぶつかん
横浜市歴史博物館 (横浜市都筑区中川中央1-18-1)

え どじだい ひとびと く もけい てんじ
江戸時代の人々の暮らしがわかる模型などが展示されています。



横浜市
歴史博物館

とき ちゅうい
まちあるきをする時の注意

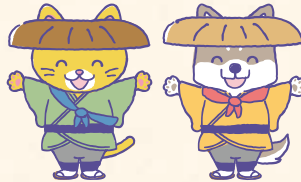
ある くつ ふくそう い すいぶんほきゆう わす
●歩きやすい靴、服装で行きましょう。水分補給も忘れずに。

くるま じゅうぶん ちゅうい
●車に十分に注意しましょう。

ほこうしゃ じてんしゃ つうこう さまた
また、歩行者や自転車の通行の妨げにならないようにしましょう。

しょうかい しせつ こじん じゅうきよ しょうぶつ ばあい
●紹介している施設などは、個人の住居や所有物の場合があります。

かって しきちない はい
勝手に敷地内に入らないようにしましょう。



ほどがやく れきしじょうほう
保土ヶ谷区の歴史情報は
こちら



保土ヶ谷区役所HP

発行

横浜市保土ヶ谷区役所 区政推進課

〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9 TEL:045-334-6227 FAX:045-333-7945

協力

東海道風景街道 / ほどがや人・まち・文化振興会 / 保土ヶ谷ガイドの会